

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	鍼灸スポーツ学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	生理学Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時間	後期	教室名	2校舎501教室
担 当 教 員	鈴木 次郎	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
からだの構造と機能の根幹となる教科です。からだがどのような仕組みによって働いているか知る。特に生理学Ⅱ(動物生理学)では、神経の仕組みと、筋収縮の仕組み、運動を概説できる。						
《成績評価の方法と基準》						
1. 定期試験 100%(レポート課題有)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
東洋療法学校協会編:生理学 第3版 プリント						
《授業外における学習方法》						
生理学に関しては、数多くの参考書・問題集が出版されており、授業のなかでも紹介していきます。最初の根幹となる科目となり、わからない箇所は、その日のうちに質問するよう心がけてください。また、その日に習った内容はその日のうちに復習してください。						
《履修に当たっての留意点》						
生理学は深く勉強すれば深く勉強できる教科です。ただし、はり師きゅう師に求められる内容(テキストに記載されている内容)は最低限理解する必要がある。2年次に学習する科目にもつながる科目である						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	オリエンテーション 解剖学的な神経細胞の構造と体性神経・自律神経の違いを概説できる。	プリント 教科書	教科書の目次を一読しておく	
	講義形式	各コマにおける授業予定	神経の構造と種類①			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	静止膜電位の状態を理解し、活動電位による電解質の移動を概説できる。	プリント 教科書	教科書の該当範囲を一読しておく	
	講義形式	各コマにおける授業予定	静止膜電位と活動電位			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	伝導の3つ原則、跳躍伝導を概説できる。神経線維の種類を覚え概説できる。	プリント 教科書	教科書の該当範囲を一読しておく	
	講義形式	各コマにおける授業予定	興奮の伝導、跳躍伝導、神経線維の分類			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	シナプス伝達の特徴を理解する(伝導と伝達の違いを理解する)。	プリント 教科書	教科書の該当範囲を一読しておく	
	講義形式	各コマにおける授業予定	シナプスの伝達、興奮性シナプス、抑制性シナプス 可塑性			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	シナプス伝達の特徴を理解する(伝導と伝達の違いを理解する)。	プリント 教科書	教科書の該当範囲を一読しておく	
	講義形式	各コマにおける授業予定	シナプスの伝達、興奮性シナプス、抑制性シナプス 可塑性			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	中枢神経、脊髄・脳幹の役割を概説できる。	プリント教科書	教科書の該当範囲を一読しておく
		各コマにおける授業予定	中枢神経系の分類 脊髄 脳幹の機能 I		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳幹、小脳、間脳の役割を概説できる。	プリント教科書	教科書の該当範囲を一読しておく
		各コマにおける授業予定	脳幹、小脳、間脳		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	大脳の機能を概説できる。学習と記憶を概説できる。	プリント教科書	教科書の該当範囲を一読しておく
		各コマにおける授業予定	大脳の機能、学習と記憶、脳波、睡眠		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳神経の種類と作用を概説できる。	プリント教科書	教科書の該当範囲を一読しておく
		各コマにおける授業予定	末梢神経:脳神経の機能について		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳神経の種類と作用を概説できる。	プリント教科書	教科書の該当範囲を一読しておく
		各コマにおける授業予定	末梢神経:脳神経の機能について		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	自律神経反射の仕組みを概説できる。	プリント教科書	教科書の該当範囲を一読しておく
		各コマにおける授業予定	自律神経が関与する反射		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	自律神経反射の仕組みを概説できる。	プリント教科書	教科書の該当範囲を一読しておく
		各コマにおける授業予定	自律神経が関与する反射		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋細胞の構造を概説できる。筋の滑走説を概説できる。	プリント教科書	教科書の該当範囲を一読しておく
		各コマにおける授業予定	筋の構造と収縮の仕組み、筋収縮、収縮の種類・筋のエネルギー代謝		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	特に、平滑筋・心筋の特徴(閾値など)を概説できる。	プリント教科書	教科書の該当範囲を一読しておく
		各コマにおける授業予定	筋の疲労、骨格筋・平滑筋・心筋の機能的違い		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋と神経のかかわりを概説できる。	プリント教科書	教科書の該当範囲を一読しておく
		各コマにおける授業予定	運動 I (運動単位と運動ニューロン)		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	鍼灸スポーツ学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	生理学Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時間	後期	教室名	2校舎501教室
担 当 教 員	鈴木 次郎	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
からだの構造と機能の根幹となる教科です。からだがどのような仕組みによって働いているか知る。特に生理学Ⅱ(動物生理学)では、神経の仕組みと、筋収縮の仕組み、運動を概説できる。						
《成績評価の方法と基準》						
1. 定期試験 100%(レポート課題有)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
東洋療法学校協会編:生理学 第3版 プリント						
《授業外における学習方法》						
生理学に関しては、数多くの参考書・問題集が出版されており、授業のなかでも紹介していきます。最初の根幹となる科目となり、わからない箇所は、その日のうちに質問するよう心がけてください。また、その日に習った内容はその日のうちに復習してください。						
《履修に当たっての留意点》						
生理学は深く勉強すれば深く勉強できる教科です。ただし、はり師きゅう師に求められる内容(テキストに記載されている内容)は最低限理解する必要がある。2年次に学習する科目にもつながる科目である						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第16回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋と神経のかかわりを概説できる。	プリント 教科書	教科書の該当範囲を一読しておく	
		各コマにおける授業予定	運動Ⅱ(シナプス)			
第17回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋と神経のかかわりを概説できる。	プリント 教科書	教科書の該当範囲を一読しておく	
		各コマにおける授業予定	運動Ⅲ(α - γ 連関)			
第18回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋と神経のかかわりを概説できる。	プリント 教科書	教科書の該当範囲を一読しておく	
		各コマにおける授業予定	運動Ⅳ(伸長反射のメカニズム)			
第19回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋と神経のかかわりを概説できる。	プリント 教科書	教科書の該当範囲を一読しておく	
		各コマにおける授業予定	運動Ⅴ(伸長反射と誘発筋伝図)			
第20回	講義形式	授業を通じての到達目標	色々な反射を概説できる。	プリント 教科書	教科書の該当範囲を一読しておく	
		各コマにおける授業予定	運動Ⅵ: 屈曲反射、皮膚反射、長脊髓反射			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第21回	講義形式	授業を通じての到達目標	痛みの分類と性質を概説できる。	プリント教科書	教科書の該当範囲を一読しておく
		各コマにおける授業予定	感覚Ⅰ：感覚の分類と一般的性質、痛覚		
第22回	講義形式	授業を通じての到達目標	痛みのメカニズム、鎮痛の仕組みを概説できる。	プリント教科書	教科書の該当範囲を一読しておく
		各コマにおける授業予定	感覚Ⅱ：内因性発痛物質、痛みの抑制・鎮痛		
第23回	講義形式	授業を通じての到達目標	嗅覚・味覚の仕組みを概説できる。	プリント教科書	教科書の該当範囲を一読しておく
		各コマにおける授業予定	感覚Ⅲ：味覚の発生・嗅覚の発生		
第24回	講義形式	授業を通じての到達目標	聴覚・平衡覚の仕組みを概説できる。	プリント教科書	教科書の該当範囲を一読しておく
		各コマにおける授業予定	感覚Ⅳ：聴覚・平衡覚		
第25回	講義形式	授業を通じての到達目標	視覚の仕組みを概説できる。	プリント教科書	教科書の該当範囲を一読しておく
		各コマにおける授業予定	感覚Ⅴ：視角		
第26回	講義形式	授業を通じての到達目標	生体の防御作用を概説できる。	プリント教科書	教科書の該当範囲を一読しておく
		各コマにおける授業予定	生体防御作用Ⅰ		
第27回	講義形式	授業を通じての到達目標	生体の防御作用を概説できる。	プリント教科書	教科書の該当範囲を一読しておく
		各コマにおける授業予定	生体防御作用Ⅰ		
第28回	講義形式	授業を通じての到達目標	ホメオスタシス・バイオリズムを概説できる。	プリント教科書	教科書の該当範囲を一読しておく
		各コマにおける授業予定	身体機能の協調		
第29回	講義形式	授業を通じての到達目標	ホメオスタシス・バイオリズムを概説できる。	プリント教科書	教科書の該当範囲を一読しておく
		各コマにおける授業予定	身体機能の協調		
第30回	講義形式	授業を通じての到達目標	まとめ	プリント教科書	
		各コマにおける授業予定	まとめ		